

H27年度 海溝型地震部会（プログラム暫定 2.12b 版）

2016年3月2日（水）10:00-18:00 地震研究所1号館2階セミナー室

連絡担当者：西村卓也（京大防災研）

10:00-10:05	西村 卓也	趣旨説明
10:05-10:20	塩原 肇	海底での地震・地殻変動観測に向けた観測技術の高度化
10:20-10:35	石川 直史	海底地殻変動観測+海洋測地の推進
10:35-10:45	木戸 元之	海溝軸近傍で観測可能な海底地殻変動観測技術の開発
10:45-11:00	西村 卓也	短スパン伸縮計等を活用した西南日本における短期的 SSEの観測解析手法の高度化
11:00-11:15	中村 浩二	自己浮上式海底地震計観測による宮城県沖の地震活動
11:15-11:30	平原 和朗	地震サイクルシミュレーションの高度化
11:30-11:45	宮崎 真一*	実観測データに基づく断層面の摩擦パラメータと地殻活 動の状態推定のためのデータ同化手法の構築
11:45-12:00	中谷 正生	次世代プレート境界地震発生モデル構築のための実験 的・理論的研究

昼食

13:00-13:15	東 龍介	スラブ内地震の発生メカニズムの解明
13:15-13:30	望月 公廣	日・米・NZ 国際協力によるスロースリップでのプレート 境界面断層滑りメカニズムの解明
13:30-13:45	五十嵐 俊博	相似地震再来特性の理解に基づく地殻活動モニタリング 手法の構築
13:45-14:00	矢来 博司	プレート境界面上の滑りと固着の時空間変化の広域的な 把握
14:00-14:15	朴 進午	津波地震を励起する浅部プレート境界断層の実態解明と 物性変動モニタリング
14:15-14:30	山田 泰広	先端的掘削技術を活用した総合海洋掘削科学の推進
14:30-14:45	澁谷 拓郎	南海トラフ巨大地震の予測高度化を目指したフィリピン 海スラブ周辺域の構造研究
14:45-15:00	八木原 寛	海域と島嶼域における地震・地殻変動観測による南西諸島 北部のプレート境界域テクトニクスの観測研究

15:00-15:15 谷岡 勇市郎 北海道沖低頻度大規模地震の総合的理解とそのモニタリングへの基礎的研究

休憩 15 分

15:30-15:45 宍倉 正展 海溝型巨大地震の履歴とメカニズム解明

15:45-16:00 知北 和久* 沿岸潟湖の発達史から見た北海道太平洋岸における巨大津波履歴の再検討

16:00-16:15 渡邊 剛 サンゴからなる津波石の骨格調査に基づく南西諸島周辺の津波履歴の解明

16:15-16:30 山岡 耕春 南海トラフ域における巨大地震断層域の力学・変形特性の把握

16:30-16:45 篠原 雅尚 日本海溝・相模トラフプレート境界で起こる多様なすべり現象の包括的モデル構築

16:45-17:00 蔵下 英司 プレート境界すべり現象モニタリングに基づくプレート間カップリングの解明

17:00-17:15 松澤 孝紀 地殻活動の観測予測技術開発に関する研究+基盤地震観測等データのモニタリングによる地殻活動の理解と予測技術の開発

17:15-17:30 小平 秀一 海域地震発生帯研究開発

17:30-17:45 酒井 慎一 首都圏に被害を及ぼす地震の解明およびその被害の実像

17:45-18:00 総合討論

*の発表者の課題は、代理による報告となる予定.